

VERA

Tokyo Woman's Christian University



SPECIAL FEATURE

教学改革、始動。

リベラルアーツのさらなる進化を目指して

学長 森本 あんり



VERA インタビュー

教学改革、始動。 リベラルアーツのさらなる進化を目指して

学長

森本 あんり
MORIMOTO Anri

1979年国際基督教大学人文学科卒業後、東京神学大学、プリンストン神学大学を修了(Ph.D)。国際基督教大学教授を経て、2012年から2020年まで同大学務副学長。2022年同大名譽教授。2022年4月より東京女子大学学長。

東京女子大学が開学してから1世紀余。

長く続いた感染症、ロシアのウクライナ侵攻、AIの進化など、今世界は大きく変化しています。

自らの意志と責任によって、この新たな時代を力強く生きる女性を育むため、

本学では2024年度から「教学改革」を実施します。

今回は、改革に込められた私たちの熱い思いとともに、具体的な取り組みのいくつかをご紹介します。

時代への挑戦を続けてきた 東京女子大学

今から1世紀以上前の1918年(大正7年)、東京女子大学は「犠牲と奉仕」というキリスト教の精神を教育理念として創立されました。当時は良妻賢母が女性のあるべき姿とされ、その考えに基づく女子教育が主流でした。しかし本学は、「自立した知性」の育成を掲げ、個人としての人格を持った女性を今日まで育成し続けてきました。

その後も日本は戦時下であり、国益に直結する実学として専門教育が偏重される場面が多く見られました。しかし東京女子大学は時代の動向に流されず、豊かな人間性^{かんじょう}の涵養を求めてリベラルアーツの学びを追求し続けてきたのです。

その挑戦は、創立から100年を過ぎた現在も続いています。そして、世界が大きな変化を迎えている今、私たちが目指してきた「リベラルアーツ」と「女子教育」の意義はますます大きくなっています。

今こそ価値が高まる、 新たな女子教育

世界経済フォーラムが発表した2022年のジェンダー・ギャップ指数において、日本の総合順位は146か国中116位と低迷を続けています。この数字が示すように、日本における男女格差は依然として大きいです。この状況を打破し、女性たちが本来の力を発揮できるようになるには、優れた教育を通じた女性へのエンパワーメントが不可欠です。

そのためにカギとなるのが、「自信」の醸成です。よく児童書では「ほめて育てる」と言いますが、何もしていないのにほめても、子どもは言葉の嘘をすぐに見抜いてしまうそうです。そうではなくて、自分が主体的に行動して何かを達成し、その結果が認められたときに初めて自信が生まれます。女性のリーダーシップも同じで、実際にそういう体験をすることが決定的に重要です。共学的环境下では今なお女性は補助的な立場にとどまりがちですが、女子大学であれば、否応なく女性がリーダーシップを発揮し、成功体験を得る機会が多くなります。だから女子大学は、女性が自信を得るために非常に適した環境なのです。

共学の大学では、就職活動のサポートを受ける際にも男子学生が優先されてしまうこともあり得ます。しかし女子大学ではそういった問題は生じません。学びだけではなく、女性が実社会へはばたく際のサポートとしても女子大学は効力を発揮することを、本学は繰り返し実証してきました。

ジェンダー平等の考えと、 本学における具体的な取り組み

「アファーマティブ・アクション」という言葉が使われるようになってもう半世紀になりますが、日本ではなおよく理解されていません。これは「差別によって不利益を被っている層に対して、一定の優遇措置を講じることで機会均等の実現を目指す取り組み」と説明されます。例えば大学教員の女性比率を見ると、本学は現在4割ですが、これは日本の水準では非常に高く、胸を張ってよい数字です。本学はこれをさらに5割まで引き上げたいと思っています。

実は、教員採用の場面でわたしも気付いたことがあります。募集要項を見ますと、多くの大学が「男性と女性が応募した場合、業績や資格が同等であれば、女性を優先的に登用します」などと書いているのに、実際にそれらの大学を見ると、女性教員の比率は信じられないくらい低いのです。どうしてか。

この「同等」という言葉がクセモノなのです。これまでの社会では、慣習や偏見、ライフステージにおける変化などによって、女性には大きなハンディキャップが生じていました。この状況はイス取り競争にも例えられます。女性は荷物を抱え、男性は何も持たずに軽々と走ります。この条件で競争すれば、ほとんどのイスが男性に占められてしまうのは当然です。つまり、参加者の前提条件が同等でない以上、結果のみに「同等」を求めることはナンセンスなのです。男女それぞれが座ることのできるイスの数は、両者のハンディキャップに応じて配分する必

要があります。アファーマティブ・アクションとはそういうことです。見かけ上の「平等 (Equality)」でなく、実質的な「公平 (Equity)」を求めることです。ハンディキャップの有無を考慮せず、全員を同じ物差しで測るのが「平等」なら、ハンディキャップの有無に応じて機会を配分するのが「公平」です。本学の4割という数字も誇りに思っよいことですが、もう一段高い目標を明示して具体的な行動に結び付けたいと思っています。

活躍の機会が公平に与えられ、その人が本来持つ主体性をのびのびと発揮できるような環境に身を置くと、人間は自然と自信と責任を持って行動できるようになります。女子学生に対しても、性別に基づく機会損失のない優れた環境を安定的に提供できるのが、本学のような女子大学が持つ大きなメリットの一つだと思います。

リベラルアーツとは何か

冒頭でもお伝えした通り、本学では建学当初からリベラルアーツを学びの柱に据えてきました。もともと「リベラル」の語は、古代ギリシアの「自由民」、つまり奴隷を使役して労働から解放された富裕層を指すものでした。しかし現在のリベラルアーツは、「生まれながらの自由人」のためではなく、誰もが「自由になる」ための学びです。世界では「Liberal Arts」を「Whole Person Education (全人教育)」という言葉に置き換える動きもあります。単に知識だけでなく、学びを通じて心も魂も身体も含む人間性の全体を涵養し、狭い偏見から解き放たれて精神の自由を得るための学びなのです。

しかし、幅広い学びという点で「博識」とリベラルアーツとはどう違うのでしょうか。両者の決定的な違いは、「統合力」に



あります。博識とは、多くの知識を連続性のないばらばらな点の状態です。しかしリベラルアーツでは、音楽と生物学など、異分野の知識や世の中の事象を自分の中で咀嚼し、消化して統合する力を養います。その積み重ねが「自分という軸」を作っていきます。

考え方の軸を持つことで、ものごとの価値判断が可能になります。その結果、倫理に関する考えや自らが追求すべき幸福についての考えなども深まり、人間性が成熟していきます。

学びを進化させる「教学改革」

本学ではこの度大きな教学改革を行います（詳細はp.5「東京女子大学の教学改革について」を参照）。改革の柱はもちろん、本学の原点であるリベラルアーツ教育です。時代に流されることなく、原点に立ち戻ることによって現代に必要な洞察力を得て、次の100年に向けた学びの幅と高みを生み出していきます。

改革は2024年度と2025年度の二段階で行われます。2024年度には、全学共通カリキュラムの改正（知のかけはし科目の新設、AI・データサイエンス教育の全学必修化、英語教育の強化）、情報数理学専攻の立ち上げ、経営学分野の学びの強化を行います。2025年度には全学的な学科再編を行う予定です。

①「知のかけはし科目」の新設

今回の改革の大きなチャレンジが、全学共通カリキュラムに2024年度から新設される「知のかけはし科目」です。従来の大学教育において、一般教養科目はしばしば「広く浅く」という誤解のもと軽視されてきました。しかし本来、一般教養の学びはリベラルアーツの華であり粋であり核であると言えます。

「かけはし」は、初代学長新渡戸稲造に由来する言葉ですが、「専門領域を超えて知と知をつなぐ」という意味が込められています。その名の通り、知のかけはし科目では、学問領域の異なる専任教員2名がペアを組みチーム・ティーチングによって授業を行います。なぜ、異分野の組み合わせが大切なのでしょう。それは、既成概念の枠を越えた出会いから、予想もなかった新たな「知」が生まれるからです。新しい出会いは、自分自身を偏見や思い込みから解き放つ契機となります。

もともと教員は、学会などでの経験を通じて学際的な対話がどんなに面白いかを知っています。知のかけはし科目では、その魅力を授業で学生にも伝えてもらいたい。目の前で新しい知が生まれていく血の通った授業は、学生たちにとってリベラルアーツの真髄に触れる好機となるでしょう。

異分野間のチーム・ティーチングは、教員にとっても刺激的なチャレンジです。自分の専門の中で話すのと違って、対話の中では従来とは全く異なる展開が生まれてくるでしょう。想定外の質問に直面して、時には答えに詰まってしまうことも考えられます。しかし、そのときこそチャンスです。新たな問いと格闘する教員の姿を目の当たりにして、学生もまた一緒に考え始めるでしょう。先生は何でもすべて知っている万能の存在ではありません。自分と同じように、自分と一緒に、そこで考え、悩んでいる。そういう体験こそ生きた教育になります。



学生が卒業してから直面する現代世界の諸問題は、きちんと仕分けされて箱に収まって出てくるわけではありません。解決すべき課題は常に予告なしに発生します。国会答弁のように、前もって答えを準備しておけるようなものではありません。知のかけはし科目では、そうした現実社会そのままの状況が生じます。授業に参加する者は、目の前の問いに対して、心理学でも歴史学でも経済学でも、自らの持つ専門性をフル稼働してその場に対応せざるを得ません。こうして思考力が鍛えられます。

一週ごとに交替で教員が教え、聞き、対話する授業なので、後半には学生を交えたディスカッションに発展することと思います。いきなり「ご意見をどうぞ」と言われても話しくいですが、先生同士が対話する中に自分も加わってゆくなら自然でしょう。そうしてたどり着いた結論は、誰かに教わっただけの知識とは全く異なる力を持っています。あらかじめ用意された答えを受け取る「受講者」ではなく、自分で考えて一緒に授業を作る「参加者」となる。それがこの授業の目的です。

こうした知的な贅沢さを備えた授業は、きめのこまかい少人

数指導に特色を持つ本学だからこそできることです。

知のかけはし科目は、学問の分野だけではなく、学年の壁も越えます。1年次から4年次までの学生が一つの教室に混在し、さまざまな立場からの意見が交換される授業となります。この多角的な視点がリベラルアーツの学びには大切なのです。

②情報数理学専攻の新設

分野の壁を越える学びの発想は、理系の専門の学びにも生かされています。これまで数理科学科は数学専攻・情報理学専攻の2専攻に分かれていました。しかし2024年度の改革では、より横断的な学びを目指し、新しく「情報数理学専攻」の1専攻に生まれ変わります。

リベラルアーツには文理両輪の学びが欠かせません。AI・データサイエンスの全学必修化と併せ、本学では全学共通カリキュラムの中で理系分野の学びもさらに充実させていく考えです。

③経営学分野の強化

経済学専攻では、マーケティング分野、人的資源管理論および組織論を専門とする実務経験豊富な教員を迎え、経営学の分野を強化します。ここでの「経営」とは、企業経営のみではなく、人的・経済的なマネジメント全般を指します。民間企業から地域コミュニティや政治の場まで、マネジメント能力を発揮すべ

き場は無数にあります。マネジメントはあらゆる組織におけるリーダーシップの基本なので、今回の経営学分野の強化も実社会における女性のエンパワーメントの一端と言えるでしょう。

マネジメントの学びを自らの血肉とするには、日々の実践が必要です。女性が遺憾なくリーダーシップを発揮できる女子大学の環境は、マネジメントの学びにも最適なのです。

さいごに

今回の教学改革で、本学はいつそう東京女子大学らしく輝くようになります。従来の女子教育では手薄だった理系や経営学の分野を強化し、本学の伝統だった英語の学びについても、世界の共通語としてのカリキュラムを全学向けに強化します。

学生の皆さんには、本学での4年間を通じて、自信を持って世界と向き合うことのできる人になっていただきたい。未知との出会いを恐れず、新しい挑戦を受け止めることのできる人。多くの学びと経験を積んで、確信を持って自分の道を選び取り、歩み続けることができる人。それこそが、100年前も今日も変わらずに本学が送り出してきた「自立した知性」を持つ女性の姿だと思います。

（聞き手 渋谷 麻子）

東京女子大学の教学改革について

東京女子大学はリベラルアーツ教育のさらなる進化を目指し、教学改革を行います。2024年度に第一段階として以下を行います。

（1）「全学共通カリキュラムの大胆な改正」

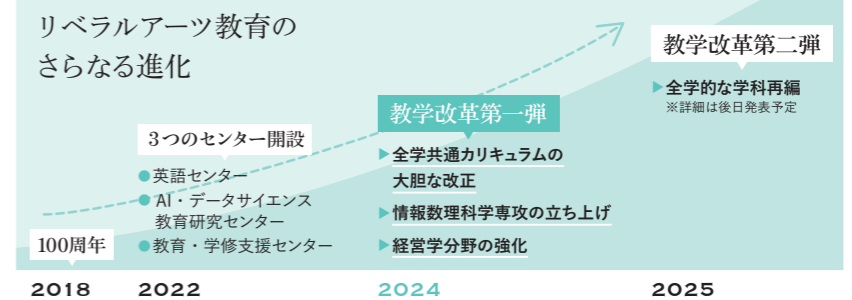
異なる学問領域の教員2名によるチーム・ティーチングを導入し、教員や学生がアクティブに学びあう「知のかけはし科目」を新設します。その他、AI・データサイエンス科目の全学必修化、英語教育の強化を行います。

（2）「情報数理学専攻の立ち上げ」「経営学分野の強化」

数理科学科の既存の2専攻（数学専攻・情報理学専攻）を統合して、新たに1つの専攻として「情報数理学専攻」を立ち上げ、AI・データサイエンスを含む幅広い分野を横断的に学ぶ場として整えます。また、経営学の分野を新たな教員配置で強化し、企業ビジネスや地域マネジメントに興味を持つ学生たちの志を応援します。

2025年度には教学改革第二段階として、全学的な学科再編を予定しています。教学改革についての詳細や最新情報は、随時大学公式サイトをご確認ください。

2024年教学改革特設サイト
「世界は変わる、私も進め。」



TWCU OG TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆ Vol.10

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を活かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

リベラルアーツ教育を通して 出会う生涯の学び

私は運動生理学や応用健康科学を専門とする教員・研究者として活動しています。大学など複数の高等教育機関でスポーツ実技や健康教育の講義を行うほか、閉経後女性のエネルギー代謝と生活習慣との関係、若年女性の月経異常と生活習慣との関係といった内容をテーマに、女性の健康に関する研究にも取り組んでいます。

現在のキャリアを志望したきっかけの一つに、学部1年次に必須科目として受講した健康・運動科学の授業があります。もともと中学校あるいは高等学校の数学教師になることを目指し数理学の学べる大学を選んだのですが、リベラルアーツ教育を通して健康科学という学問に出会えたことが、今の自分につながっているのだと感じます。東京女子大学の学びの特色であるリベラルアーツ教育はまさに、今、教員として学生に教えていることの基本です。また、専門的に学んだ数学、特に統計学の知識は、日々の仕事にも欠かせないものであり、研究活動にもふんだんに活用しています。

私が東京女子大学について覚えていること、そして今の自分につながっていると思われることは、分野の学びだけではありません。キリスト教の精神を基礎とした「犠牲と奉仕」の考え方や、「人として自分がどのように生きていくか」という問いを常に持ち続けてきた結果として今があると思っています。あまり普段は言葉にしないことかもしれませんが、心の奥底では、大学時代に得た経験や感覚というのはずっと自分の根底にあって、それ

大学教員・研究員

薄井 澄誉子さん

USUI Chiyoko

1999年文理学部数理学科卒業。福田一郎ゼミ。2015年4月から2018年3月まで東京女子大学特任講師、2023年現在は上智大学基礎教育センター特任助教、津田塾大学学芸学部非常勤講師などを務める。



が土台となり肉付けされてきたと感じています。季節ごとに自然が色とりどりに移り変わり美しいキャンパスや、心が落ち着く癒やしの場所としての大学の光景は、今でも思い浮かべられる大切な思い出です。卒業後「女性のウェルネス」領域の特任講師として東京女子大学に戻ったときは、かつて自分が学んだ6号館や7号館の教壇に立てることがとてもうれしかったのを覚えています。

高等教育機関の教養教育においては「大学体育不要論」もありますが、大学時代に健康教育を受けるということは、社会に出た後、自分だけではない家族も含めた生活環境を守る上で大切であると私は考えています。この考えをあきらめることなく、今後も教養教育の現場に立ち、教育や研究を続けていきたいです。

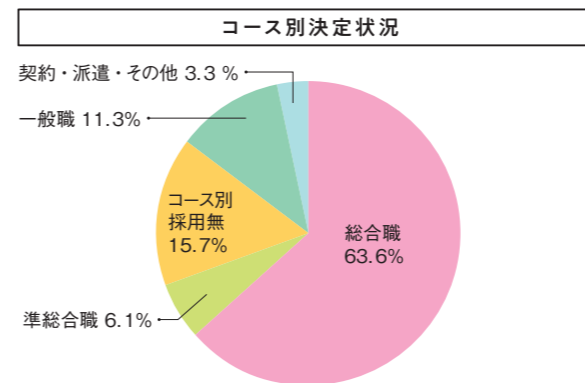
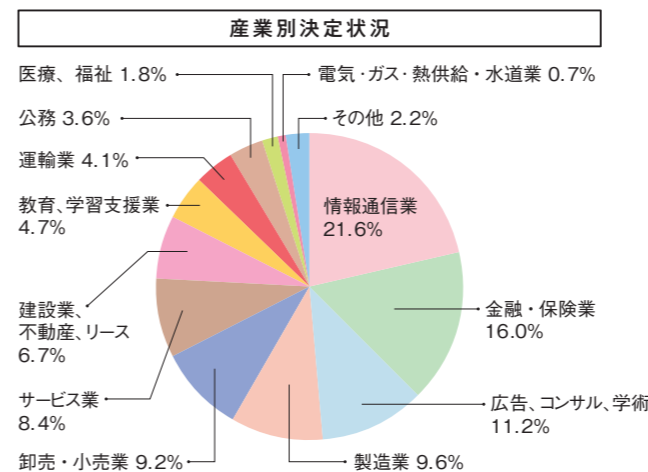


2022年度就職決定状況

2023年3月卒業者の就職率は99.2%(前年:99.4%)となり、前年度と同水準の高い就職率を維持することができました。就職活動を支えてくださったご家族に感謝いたします。

産業別の割合では、情報通信業、金融・保険業が上位という状況はこの数年の傾向ですが、例年多かったサービス業が今年度は減少し、代わりに広告、コンサルティング、学術研究機関など専門性の高い事業を展開する業界や、製造業への就職者が増えました。全体としては、特定の業界に偏ることなく、さまざまな業界に就職しています。また、総合職の割合は前年度に約10ポイント上昇した高い数値を維持し、63.6%(前年:63.9%)でした。多くの学生が意欲を高く持ち、キャリアを自ら切り拓いています。

企業の採用活動も脱コロナを見据えた動きが活発化し、採用数を増やす企業も少なくありません。一方で採用手法は、対面とオンラインのハイブリッドが引き続き主流となっています。今後も変化する状況に対応し、充実した支援ができるよう努めてまいります。



本学が主催する「女子大学合同就活ゼミ」が10大学に拡大します

2021年度より本学が中心となって他の女子大学と合同でゼミ形式の就職活動支援プログラムを実施しています。当初は4大学で始まりましたが、2022年度は9大学に、そして今年度はさらに10大学に拡大します。このゼミでは、5月から10月までの約半年間、学生同士が相互に支援しあう形で就職活動の準備を行います。前半は各大学で講義と練習を行います。後半は異なる大学の学生同士が合同で実践的なプログラムを経験し、力を伸ばしていきます。本番に近い練習や一人では気付かなかった情報を得る場として、大学の枠を越えた幅広い仲間とのヨコのつながり、就活ゼミOGとのタテのつながり、他大学OGとのナナメのつながりを生み出し、ピアサポートの大きな支援サイクルを作っています。

京都府北部地域振興のためのワークショップを開催

2022年3月に京都府と締結した就職支援協定に基づき、京都府・京都ジョブパークとの共同企画として、2023年3月27日「東京女子大学×京都府 課題解決型ワークショップ(1・2年次対象)」を開催しました。

本ワークショップは、SDGs目標11「住み続けられるまちづくり」を目指して地域振興に取り組む2社の事例を基に、より効果的なプランを提案するため行ったものです。当日は20名の学生が参加し、京都府・企業担当者に向けてプレゼンテーションを行い、行政・企業の視点からフィードバックを受けました。事後のアンケートでは参加した学生のうち9割以上が「満足」と回答し、「地域の課題解決策について実現性やニーズなどを考慮しつつ立案できる良い機会だった」「実際に地域振興に取り組む方からフィードバックを得られて参考になった」などの感想が寄せられました。

Students

ばばたけ東女生!

自ら「問い」を立て、学びを深め、
学ぶことを楽しむ学生の姿を紹介します。

コミュニケーション専攻の学生2名が、情報デザインの学びをもとに
企画アイデアコンテスト「課題解決プロジェクト」(株式会社マイナビ主催)に参加し、見事3位に入賞しました。
取り組みの概要や受賞までの道のりについて語っていただきました。

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 3年

菊池 凜花 KIKUCHI Ririka

大谷 陽奈 OTANI Hina

「課題解決プロジェクト」は、さまざまな企業が提示する課題に沿って解決策を考え、企画書の提出という形で参加する、オンライン完結型の企画アイデアコンテストです。私たちが参加した回では、日本電気株式会社(NEC)がテーマを出題しました。問われたのは「メタバースのようなバーチャル世界で人々が過ごし経済活動を行える環境が整っていく中、その世界で人々のWell-beingをかなえるサービスを考えてください」という内容でした。

テーマにある「Well-being」は、「一人ひとりが『自分自身はこうありたい』と、自分自身の人間性を最大限発揮できること」という定義付けがされていました。それをもとに、私たち大学生にとってのWell-beingについて考えてみました。その結果、情報の収集と共有をより容易にすることが、大学生活の充実、そしてWell-beingにつながるという結論に至りました。私たち大学生の生活には、「人とのつながり」が不可欠です。しかしコロナ禍を契機とした人とのつながる機会の減少や、オンライン・対面ともに人とのつながることへのコストやハードルの高さにより、多くの大学生が情報不足に陥り、不安や不満を抱えています。

こうした問題に対して
私たちが提案したサービス



MetinfoU

「課題解決プロジェクト」は、さまざまな企業が提示する課題に沿って解決策を考え、企画書の提出という形で参加する、オンライン完結型の企画アイデアコンテストです。私たちが参加した回では、日本電気株式会社(NEC)がテーマを出題しました。問われたのは「メタバースのようなバーチャル世界で人々が過ごし経済活動を行える環境が整っていく中、その世界で人々のWell-beingをかなえるサービスを考えてください」という内容でした。

「MetinfoU」です。これは学生が気軽に交流して情報収集できる場をメタバース上で提供する、という試みです。このサービスの一番の特徴は、大学内のコミュニティに限定することで、「ある程度の匿名性を保ったまま、信頼性の高い情報を得られる」ということです。一般的なインターネット掲示板よりも、個人的なニーズに沿ったより信頼性が高い情報を容易に得ることができます。また、「誰でも簡単かつ迅速にイベントを開催できる」ことも特徴の一つです。現実の対面イベントで必要な会場の確保や告知などの労力が、メタバース上では大幅に軽減されます。大学生活での悩み事など短期的な問題解決を目的としたイベントから、セミナーなど比較的規模の大きなイベントまで、少ないコストですぐに作る事ができます。大学生のWell-beingと情報、そしてメタバースを組み合わせた「MetinfoU」の提案は、多様な手法でテーマ解釈や現状・課題分析がされていることや、大学生が抱える悩みに寄り添うサービスであることが評価され、3位入賞することができました。

実は私たちがこのコンテストを知ったのは、締め切りの2週間前のことでした。短い期間での作成でしたが、先生や大学の仲間たちに意見を募ったりアドバイスをもらったりと、多くのご協力を得て完成でき、感謝の気持ちでいっぱいです。今後はアイデアだけでなく、実際に何か行動に移して課題解決を目指す取り組みもしていきたいと思っています。

マイナビ主催「課題解決プロジェクト」



課題解決プロジェクトへの挑戦



【今号のテーマ】

私のおすすめ授業

2023年度も新学期を迎え、学生は日々新たな学びに出会い、授業に取り組んでいます。特に刺激を受けたり、自身の関心を深めたりすることができたおすすめしたい授業について、学生記者が語ってくれました。

※開講授業および授業内容は年度・学期によって異なります。

私がおすすめる授業は「**日本語表現法**」です。設定された1つのテーマに関して、500字から3000字までいろいろな字数で文章を書く訓練を行いました。また、要約の仕方やグループディスカッション、アカデミックワードなど大学生に必要な文章・口頭表現の方法を十分に習得できました。受講後には、レポート課題の評価が高くなり、文章で表現することが楽しくなるなど、とても満足度が高い授業です。1・2年次が対象の科目です。ぜひ積極的に挑戦してみてください。

(人文学科 哲学専攻 2年 埴 美羽)

私がおすすめる授業は「**日本の伝統芸能**」です。この授業では、落語家として活躍されている先生の囃や演者としての視点など、普段聞くことができない伝統芸能の奥深い内容を聞くことができます。現代に通じている江戸時代の流行などを先生の豊かな知識で楽しく教えてください、毎回新しい発見があるので興味をかき立てられます。伝統芸能に興味がある人にもこれから学びたい人にもぜひおすすめしたい授業です。

(人文学科 日本文学専攻 2年 魚住 さやか)



「日本の伝統芸能」の様子

私がおすすめる授業は「**キリスト教学Ⅱ(世界のキリスト教)**」です。私は宗教や思想に興味がありキリスト教主義の東京女子大学に入学したということもあり、興味深く受講することができました。この授業では、キリスト教を中心に、他の宗教も含めた歴史や人々の生活、またそれが現代にどのように根付いているかなど、さまざまな視点から学ぶことができます。地図や絵画なども用いて丁寧に進められるので、これまでキリスト教を深くまで知る機会がなかった人も取り組みやすいと思います。イエス・キリストの考え方やキリスト教を信仰する人々への関心が高められるおすすめ授業です。

(国際社会学科 国際関係専攻 2年 有馬 咲楽)

私がおすすめる授業は「**都市フィールドワーク**」です。社会調査の一つの手法である、質的調査(フィールドワークやインタビューなど)について学びます。私は社会学専攻に所属しており、これまでいくつかの調査方法について学んできましたが、この授業を受けることで議論や実践を通してさらに知識を深めることができました。他専攻であるコミュニティ構想専攻の授業ですが、選択科目として履修したところとても面白く自分の研究に役立っています。卒論に向けた多様な調査方法の知識を身に付けたい人におすすめです。

(国際社会学科 社会学専攻 3年 矢崎 麻記)



第9回

懐疑、明確化、充実した人生

哲学専攻 大谷ゼミ

世界観の点検としての哲学

私の専門は哲学です。哲学とはどのような学問でしょうか。私の考えでは、哲学は「世界観の点検」です。「世界観」と言うのとちょっと大きさに響きますが、要するに「当たり前」のことで、哲学とはわれわれの「当たり前」を点検する学問なのです。

このように言うと、「当たり前を疑う」という話だと思う人もいられるかもしれません。実際、哲学者の中には徹底した懐疑—疑い—を追求した人もいます。例えば、近代を代表する哲学者デカルト(1596~1650年)は、方法的懐疑とよばれる議論により、ありとあらゆる事柄を疑いました。

今私の目の前にはコーヒーカップが見えています。このコーヒーカップが存在するという事は当たり前で疑いの余地などないと思われるでしょう。しかし、デカルトはそうではない、と言います。デカルトに言わせると、私は夢を見ているかもしれず、どんなにありありと見えているように思われたとしても、コーヒーカップの存在には疑いの余地があります。

ウィトゲンシュタインと哲学的明確化

しかし、「疑う」は当たり前を点検する唯一の方法では

ありません。私が研究対象としているウィトゲンシュタイン(1889~1951年)という哲学者は、「疑う」よりも「明確化」が有効な方法だと考えます。例えば、人間には心があること、男女平等な社会が望ましいこと。これらは「当たり前」でしょう。しかし、「心って何?」「男女が本当の意味で平等な社会ってどんな社会?」と問われたら、明確に答えるのは簡単ではありません。そこで必要となるのは、疑うことではなく、われわれが何を当たり前としているのかの明確化です。「心」や「平等」といった言葉はなじみの言葉であり、これらの言葉を用いて何かを言われるとわれわれはつい分かった気になってしまいます。しかし、そこでちょっと立ち止まって当たり前の中身を明確にしていくこと。これも哲学の一つの方法なのです。

哲学と充実した人生

哲学には当たり前を問い直すさまざまなやり方があふれています。私のゼミを含め、哲学専攻の授業では学生たちはさまざまな哲学の議論を学び、当たり前を深いレベルで問い直す力を身に付けていきます。

現代の人々、とりわけ女性はさまざまな「当たり前」の圧力の中で生きています。哲学を学ぶことは、そのような当たり前を問い直し、真に自分がコミットするに値する考えにたどり着く力を養うことです。それは当たり前に振り回されず、自分自身の人生を生きる力を身に付けることで、充実した人生を歩むための学びなのです。

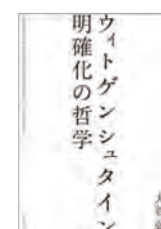


OHTANI Hiroshi

大谷 弘
人文学科 哲学専攻
准教授

1979年京都府生まれ。東京大学文学部卒業、同大学大学院人文社会系研究科修士課程修了、博士課程満期退学。博士(文学)。武蔵野大学専任講師、准教授を経て、現職。

入門コンテンツ



『ウィトゲンシュタイン
明確化の哲学』
(青土社、2020年)
大谷 弘 著

ウィトゲンシュタインの哲学を「明確化」という観点から読み解く本です。ウィトゲンシュタインの学説の要約ではなく、その「哲学するさま」を描き出すことを目指しました。最新の研究成果を踏まえつつも、専門家ではない一般読者を想定しています。

英語センター活動報告

2022年4月に発足した英語センターでは、国際共通語としての英語力向上のため、さまざまな支援を行っています。活動の一端として、有志の学生団体 SCALE の取り組みと、英語学習オンラインプログラムの提供についてご紹介します。

学生有志団体 SCALEの取り組み

SCALE
国際英語学科 国際英語専攻 4年
浅野 梨好 ASANO Riko

SCALE (Student Committee for the Advancement and Learning of English) は去年発足した、キャリアイングリッシュ課程の有志団体です。昨年度はGuest Forum, Lunch Time Gathering with an Intern Student from Mount Holyoke College, with Native English Teachersといったイベントを行い、今年度に入ってからメタバース新年度交流会を実施しました。イベントの運営として、企画の発案から開催までほとんど全てのフローを私たちが行っています。中でも特に「集客をすることの大変さ」を痛感しています。多くの人に注目してもらえるような魅力的な企画を考案したり、目を引くデザインのポスター作成に注力したりするなど、日々アイデアを出し合って運営しています。また、ネイティブスピーカー

の先生やマウントホリオーク大学のインターン生とのメールのやり取りは英語で行うため、英文ビジネスメールの書き方にだんだん慣れてくるのも、SCALEに入ってから習得したスキルだと思っています。発足2年目ということもあり、まだまだ課題もたくさんありますが、2年目だからこそ、従来のやり方にとられない新しい企画を実施していきたいと思っています。これからも、学生のキャリア形成や英語力向上のお手伝いをしていけるように努めてまいります。



SCALE公式LINE
(学内者向け)

メタバース新年度
交流会の様子

特別奨励金制度付・英語学習オンラインプログラム

英語のスピーキング力を上げたい、TOEICのスコアアップを目指したい、といった向学心ある学生の要望に応え、2022年度から全学英語カリキュラムの補完事業として、自律型オンライン英語学習プログラムの提供を開始しました。本プログラムではTOEICスコアを目安にした英語力向上を要件に、個々の学習者の動機づけや達成感を応援するための特別奨励金制度が設けられ、最終的に全体の約3割の受講者に奨励金が支給されました。受講後のアンケートには、「スマホからも学習できる」、「発音のチェックと採点ができる」、「シャドーイングやディクテーションのトレーニング型の練習ができる」、「リーディングの問題量が

多く、たくさん練習できた」、「外国人コーチとのマンツーマンは学習効果が高かった」などのオンライン英語学習を評価する声が多数寄せられ、「これからも英語を学び続けたい」といった前向きな回答もありました。概して、コース内容が分かりやすく、丁寧な対応、迅速な採点と役に立つフィードバックが評価されたようです。語学学習に他者との交流は不可欠ですが、習熟度を上げるためには、自分に合った学習方法を見つけ、自分の学習を問いながら楽しむ自律性(autonomy)も必要です。そのための支援活動の第一歩となった本プログラムは2023年度も継続して実施予定です。

カフェテリア(学生食堂)リニューアルのお知らせ

3月に、11号館2階カフェテリア(学生食堂)のテーブル、椅子をリニューアルしました。

「学生が食事以外の時間でも利用したいと思える魅力的な食堂」を目指して、1996年の竣工時当初のままであったテーブル・椅子などの什器とレイアウトを大幅に変更しました。ボックスシート、ソファ席、カウンター席など、エリアごとにさまざまなタイプの座席を設置したほか、学生からの要望にも応えて電源使用可能な席を新設してい

ます。さらに混雑時の座席稼働率を上げるため、全体的なレイアウトを見直しました。個人利用はもちろんグループ利用にも快適な広々とした空間になり、食事の場所だけではなく自習スペースやコミュニケーションスペースとしても使いやすい学生食堂となりました。

なお、このリニューアルには東京女子大学教育後援会からのご寄付を一部充てさせていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



ゆったりと使えるボックス席
落ち着いた色調で広々とした空間に



電源が利用できる席も設置

ランチタイム限定お弁当販売も開始

4月4日(火)、新しくランチタイム限定のお弁当販売がスタートしました。2号館3階にて、平日の11:30～13:00に多種多様のお弁当が購入できます(売切次第終了)。学生が健康で豊かな大学生活を送ることができるよう、今後とも充実した食事環境の提供に努めてまいります。

「一人暮らし応援弁当」配布の取り組みについて

教育研究支援部 学生生活課 課長
森田 光則 MORITA Mitsunori

「食券ください」朝、事務室の窓口が開くと同時に学生がやってきます。

4月より一人暮らしで経済的に困難な学生を対象に学食のお弁当を無料で配布する取り組みを開始しました。



食材だけでなく、生活に必要なあらゆるものが値上がりする一方、一人暮らしをする学生の実家からの仕送り額の平均は30年前と比べ減っている

という報道もあります。このような一人暮らしの学生の助けになればと思い、始めた取り組みです。食券は、学生生活課窓口で前期授業終了の7月21日まで配布する予定で、なるべく多くの学生に食券がわたるよう週ごとに学年を指定しています。毎日30～35食を用意していますが引き換え終了時間にはおおむね完売し、学生からは「食費が助かる」、「毎日お弁当の中身が違って楽しみ」といった喜びの声が聞かれています。学生生活課ではフードバンクの情報提供も随時行うなど、学生の生活面でのサポートもしています。

なお、この取り組みは日本学生支援機構が行った「物価高に対する経済対策支援事業」として認定され、支援金を受けて実施しています。

2022年度エクセレント・ファカルティの決定

東京女子大学では、本学の教育職員全体の質の向上および大学組織の活性化を目的とした教育職員業績評価制度を実施しています。本制度の一環として、特に優れた業績をあげた教育職員を2022年度エクセレント・ファカルティとして選出しました。2022年度の受賞者は、右の2名の方々です。



人文学科 日本文学専攻 教授 光延 真哉氏

〈選定理由〉広報委員長として大学広報のために教職協働で尽力したこと、また教育研究においても、ユニークなアクティブラーニング形式の授業運営など、創意工夫を重ねた優れた活動を行ってきたことが評価されました。



心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 教授 橋元 良明氏

〈選定理由〉コロナ禍における日本人の情報行動という規模の大きな研究を、複数の外部資金を継続的に獲得しながら実施し、著書として編集・出版するという学術的貢献をされたのみならず、複数のメディア取材を通じて大学広報にも貢献されたことが評価されました。

第6回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト報告

第6回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテストが実施されました。今回も全国の高校生、大学生、社会人から多数の応募がありました。書類審査を経て、2022年12月4日に最終審査会がオンラインにて実施されました。事前提出されたビデオレターおよび当日のプレゼンテーション・質疑応答により審査が行われ、起業部門からは、東女賞1件、優秀賞1件、奨励賞3件が、アイディ

ア部門からは、東女賞1件、優秀賞2件、奨励賞4件が選出されました。また、最終審査会では、前回の東女賞、優秀賞を獲得したプランの報告がありました。新事業として展開しているプランもあり、本コンテストからは社会的意義のある成果も生まれつつあります。今後も多くの優れたプランの応募があることを願っています。

第7回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト募集要項

2023年度は以下の通り実施します。

1. 応募資格

高校生以上の女性で、次の①・②のどちらかに該当する方

- ①新たに起業をする意思のある方、もしくは今回のアイデアを実行する意思のある方
- ②これから新たな事業展開を予定している方、もしくは事業を開始して間もない方、もしくは事業に着手段階の方

2. スケジュール

- ①募集期間：2023年9月1日(金)～9月29日(金)
- ②書類審査結果通知：2023年10月17日(火)
- ③最終審査会：2023年11月25日(土)

3. 応募部門等

- ①起業部門：事業企画・資金計画が具体化されたプランニング
- ②アイデア部門：資金計画には至らないが、具体化されたイメージがある斬新なアイデア

4. 表彰

各部門により、表彰状のほか、賞金・記念品を贈呈します。

5. 応募書類送付先

東京女子大学教育研究支援課
twcu-bpc@gr.twcu.ac.jp



詳細は東京女子大学公式サイトをご覧ください。
https://www.twcu.ac.jp/main/topics/2023/0405_01.html

REPORT

2023年度事業計画および予算の概要

事務局長
安藤 由紀美

2023年度の事業計画および予算を本年3月の理事会で決定し、公表いたしました。詳細は、本学公式サイトでご覧いただけます。

【事業計画の概要】

2023年度は、リベラルアーツ教育を現代的に展開すべく2024・2025年度に実施する教学改革の準備を進めます。加えて、データサイエンス教育の強化のため「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に申請します。また、入学後最短5年で修士号の取得が可能となる学士・修士5年プログラムを開始いたします。海外派遣プログラム、スタディ・ツアーなどの国際交流活動も再開してまいります。

大学基準協会による認証評価を受審し教育・研究活動の質を確保するとともに、諸活動のさらなる充実と向上を図ってまいります。



2023年度
事業計画

【予算の概要】

2023年度は、教学改革推進への予算充実に図りました。また、キャンパスの施設・設備の拡充整備、光熱水費上昇への対応、情報基盤整備、デジタル化推進など、教育環境および社会環境の変化に伴う予算を計上しました。

事業活動収支予算は、事業活動収入5,200百万円、事業活動支出5,614百万円。当年度収支差額は基本金組入前で△413百万円。35百万円の基本金組入後で448百万円の支出超過の見込みです。これに前年度繰越収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は1,295百万円で、その大半は、過年度に受け入れた奨学金寄付金です。



2023年度
予算

NOTICE

2024年度現代教養学部 一般選抜・総合型選抜入試日程

| 入試方式 | 学科 | 専攻 | 出願期間 | 試験日 | 合格者発表日 |
|----------------------------|-----------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------|
| 個別学力試験型 英語外部検定試験 利用型 | 国際英語 | 国際英語 | Web出願 登録期間 1/3(水)～1/17(水)23:00まで 必要書類提出期限 1/17(水)消印有効 | 2/3(土) | 2/12(月) 11:00 |
| | 人文 | 歴史文化 | | | |
| | 国際社会 | 経済学 / コミュニティ構想 | | | |
| | 心理・コミュニケーション | コミュニケーション | | | |
| | 人文 | 哲学 / 日本文学 | | | |
| | 国際社会 | 国際関係 / 社会学 | | | |
| 大学入学共通テスト 3教科型 | 全学科・全専攻 | | Web出願 登録期間 1/3(水)～1/12(金)23:00まで 必要書類提出期限 1/12(金)消印有効 | 大学入学 共通テスト 1/13(土) 1/14(日) | 2/9(金) 11:00 |
| | | | Web出願 登録期間 1/3(水)～1/23(火)23:00まで 必要書類提出期限 1/23(火)消印有効 | | |
| 大学入学共通テスト 5科目型 | | | Web出願 登録期間 1/3(水)～1/23(火)23:00まで 必要書類提出期限 1/23(火)消印有効 | | |
| 英語Speaking Test 利用型 | 国際英語 | 国際英語 | Web出願 登録期間 1/3(水)～1/23(火)23:00まで 必要書類提出期限 1/23(火)消印有効 | 大学入学 共通テスト 1/13(土) | 2/21(水) 13:00 |
| 3月期(専攻特色型) | 人文 | 哲学 / 日本文学 | Web出願 登録期間 2/19(月)～2/27(火)23:00まで 必要書類提出期限 2/27(火)消印有効 | 個別試験 3/7(木) | 3/8(金) 20:00 |
| | 国際社会 | 国際関係 | | | |
| | 数理科学 | 情報数理科学 | | | |
| | 国際英語 | 国際英語 | | | |
| | 人文 | 歴史文化 | | | |
| | 国際社会 | 経済学 / 社会学 / コミュニティ構想 | | | |
| 心理・コミュニケーション | 心理学 / コミュニケーション | | | | |
| 3月期(国公立併願型) | 全学科・全専攻 | | | 個別試験なし | |
| 総合型選抜 知のかけはし入学試験 | 全学科・全専攻 | | 9/1(金)～9/8(金) 9/8(金)消印有効 | 第一次選考結果発表 9/29(金)10:00 | 11/1(水) 10:00 |
| | | | | 第二次選考 10/15(日) | |

REPORT

ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

NOTICE

新任教員紹介

| | |
|--------------------|----------------------------------|
| 橋本 ナターシャ | 国際英語学科 国際英語専攻 准教授 |
| セランド 修子 | 国際英語学科 国際英語専攻 特任准教授 |
| Savage, Michael | 国際英語学科 国際英語専攻 准教授 (外国人契約教育職員) |
| Lee, Sarah | 国際英語学科 国際英語専攻 講師 (外国人契約教育職員) |
| 黒崎 政男 | 人文学科 哲学専攻 特任教授 |
| 和田 博文 | 人文学科 日本文学専攻 特任教授 |
| 玉井 隆 | 国際社会学科 国際関係専攻 准教授 |
| 新田 徹 | 数理科学科 数学専攻 教授 |
| Schwartz, Benjamin | 英語センター 嘱託講師 |
| Ratcliff, Esther | 英語センター 嘱託講師 |

※2023年4月1日付

NOTICE

新任理事・評議員

- 【理事】 西村 幹子 2023/4/1～2026/3/31
 【評議員】 Jeffrey Mensendiek 2023/5/1～2026/4/30
 赤谷 麻愛 2023/5/1～2026/4/30
 増子 美代 2023/5/1～2026/4/30
 丸山 直子 2023/4/1～2023/9/30

同窓会からのお知らせ

同窓会主催行事に在校生、ご家族のご参加をお待ちしています。イベント、講座をやむなく中止・延期する場合は同窓会ホームページにてお知らせします。開催の有無を必ず確認の上、ご参加ください。お申し込み詳細は同窓会ホームページで。

Tel.03-3395-4448 Fax.03-3395-0084
 E-mail: office@twcu.jp
 https://www.twcu-alumnae.jp/
 Twitter: @vera_twcu
 (9:00～17:00開館 日・月曜日、祝日休館)

臨地講座
 「八重原シェークスピアガーデンを訪ねるー長野県2支部との交流も含めて」
 講師：清水(花岡)計枝(1970年文理学部社会学科卒)
 日時：9月6日(水)
 会費：東京(新宿駅)発着15,000円、長野(上田駅)発着7,000円
 サロンコンサート「ミュージカル劇団 GADSMITH と楽しいひとときを」
 出演：長澄桃子(1978年文理学部哲学科卒) 他同劇団メンバー
 日時：9月19日(火) 13:30～15:00
 会費：2,200円 学生600円(3歳以下無料)
 後期キリスト教講座
 講師：遠藤勝信 東京女子大学教授
 日時：10月5日(木)・19日(木) 13:30～15:00 オンライン併用
 会費：全2回2,300円、1回1,400円 学生1回600円
 講演会「私とカレーー直線」
 講師：内藤裕子(1999年文理学部社会学科卒) 元NHKアナウンサー
 日時：11月24日(金) 13:30～15:00
 会費：2,000円 学生600円

★会場記載のないものは72年館での開催予定です。



表紙の場所

VERA広場。正門を入ると目の前に広がる芝生の広場で、整理された緑の区画の中には小さな池や日時計があります。本館や6・7号館、チャペル・講堂といった建物に囲まれ、在学生の行き交う様子が日々見られます。なお、表紙の画像は学長室の窓から撮影した広場の風景です。

広報誌『VERA』定期購読のご案内

詳しくは、[本学公式サイト](#)をご覧ください。



VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章 8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

Web アンケート

『VERA』に関するご意見、ご要望をお寄せください。QRコードよりご入力ください。



VERA

第1号 / 2023年度

Contents

02 SPECIAL FEATURE

教学改革、始動。

リベラルアーツのさらなる進化を目指して

東京女子大学の教学改革について

06 Career

TWCU OG TALK vol.10……薄井 澄誉子 さん

2022年度 就職決定状況 /

本学が主催する「女子大学合同就活ゼミ」が

10大学に拡大します /

京都府北部地域振興のためのワークショップを開催

08 Students

はばたけ東女生!……菊池 凜花、大谷 陽奈

STUDENT PRESS Vol.6……私のおすすめ授業

10 Studies

ゼミの小窓 第9回……大谷 弘

英語センター活動報告

12 TOPICS

カフェテリア(学生食堂)リニューアルのお知らせ /

「一人暮らし応援弁当」配布の取り組みについて /

2022年度エクセレント・ファカルティーの決定 /

第6回東京女子大学

ビジネス・プランニング・コンテスト報告 /

第7回東京女子大学

ビジネス・プランニング・コンテスト募集要項

14 NEWS

2023年度事業計画および予算の概要

……安藤 由紀美 /

2024年度現代教養学部

一般選抜・総合型選抜入試日程 /

ご支援へのお礼 / 新任教員紹介 /

新任理事・評議員 / 同窓会からのお知らせ



2023年6月30日発行

東京女子大学

発行：東京女子大学 編集：広報委員会

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 TEL: 03-5382-6476 (広報課)

公式サイト

